

# 伊豆の国市有機農業実施計画

## 1. 市区町村

伊豆の国市

## 2. 計画対象期間

令和6年度から令和10年度

## 3. 対象市町村における有機農業の現状と5年後に目指す目標

### ア 有機農業の現状

本市は静岡県東部、伊豆半島の基部中央に位置し、東京からは100km圏に、県庁所在地静岡市からは50km圏にある。地形的には東方を箱根山系の連山に、西方を城山、葛城山などの山々に囲まれ、豊かな自然環境を保っている。平野部については田方平野の肥沃な農地を潤す狩野川が南北に流れ、田園地帯が広がっている。その立地条件と恵まれた気候を生かし蓄積された高度な農業技術を背景に、施設園芸によるイチゴ、ミニトマト及びメロン等や、酪農、ダイコン、スイカ、トルコギキョウ、みかん、柿並びに水稻等の多種多様な農作物を栽培し、農業生産の向上に向け発展させてきた。

こうした中、本市では、国の環境保全型農業直接支払交付金の対象となる有機農業を推進しており、現在、法人経営体が3者、個人経営体が7者の合計10経営体が有機農業に取り組んでいる。

有機農業による栽培品目は、栽培面積ベースで、水稻が21.78ha(56.62%)、サツマイモやキャベツなど様々な品目が16.69ha(43.38%)が生産されている。

また、本市が実証圃場による現地研修会を開催したことにより、有機農業に関する技術や知識の習得が推進され、生産者の取組意欲が高まりつつある。

有機農業の推進における課題は、農業全般の課題である高齢化や後継者不足が、有機農業の担い手確保や育成においても同様であること、また、消費者が有機農業で生産された農産物が、環境負荷軽減のために栽培されたものであり、有機農産物の付加価値として認識し購買力を高めるための認知等が重要である。

このため、消費需要拡大のためのPR活動を積極的に展開し、併せて生産者の生産意欲に繋げるとともに、農業生産基盤の団地化や効率化を推進し、新規就農者の獲得をはじめ、慣行農業から有機農業への転換を推進し、取組面積の拡大を目指す。

### イ 5年後に目指す目標

取組内容	R6年度	R10年度
有機農業の面積拡大	38.47ha	45.47ha
有機農業者の増加	10人	15人

## 4. 取組内容

### ア 有機農業の生産段階の推進の取組

#### ① 有機農業に取り組む担い手の育成

(実証圃場における技術習得等)

- ・近年の農業後継者等の担い手不足が顕著化する中で、有機農業を担う農家の担い手の育成も重要である。有機農業が慈善事業でなく、経営として利益を生み出す産業として、生産コストの削減や生産量を増大させる技術や取組を実証圃場で展開する。

(優良事例や先進地事例の視察による知識・技術習得)

- ・有機農業者や新規就農（学生・他業種からの転職）、慣行農業からの転換を希望する農業者に対して、優良事例や先進地事例を視察研修し、知識や技術を習得する。

#### ② 有機農業の団地化に向けた検討

- ・有機農業に取り組む農地と慣行農業に取り組む農地を区分するとともに、団地化を推進することで、既存の生産者や新たな生産者が取り組みやすくなるよう、農地利用の地域の話し合いを進め、経営基盤強化促進法に基づく「地域計画の策定」に取り組んでいく。

#### ③ スマート農業機器の導入支援と活用

- ・慣行農業に比べ、病害虫管理や除草対策等の労力が増加することから、生産コストの省力化や生産性の向上を目的に、水田抑草用ロボットなどのスマート農業機器の活用が重要であり、購入経費の一部を補助することで、生産面積の拡大をはじめ、新たな生産者の確保を図る。

#### ④ 有機稲作研究会の発足

- ・新規就農者や慣行農業から有機農業への転換を、簡易に、わかりやすく、誰にでもできるように、本市の土壌や気候、風土などを踏まえた「有機農業の栽培技術体系の確立」に向けた研究会の発足を検討する。

#### ⑤ 有機堆肥活用の推進と開発と整理

- ・本市が開発した有機堆肥「農土香」の利用促進を図るとともに、JAと連携した新たな有機質肥料の普及や整理を行う。（「農土香」管理者との協議）

#### ⑥ 有機農業生産者団体との連携

- ・新規就農者や慣行農業からの有機農業への転換などを希望する方へ、取組の相談や情報提供などの窓口としての活動の紹介を行う。

### イ 有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

#### ① 学校給食への有機農産物の提供（公共調達の見直し）

- ・有機米等の有機農産物を学校給食や保育食などへ、食材として提供することにより、安定的な消費先として位置づける。買い取り価格や提供する食材等は、生産者や栄養士等との調整を行い、持続的な取組として検討を行う。
- ・学校給食等への有機農産物の提供により、生徒や児童等へ環境負荷軽減対策や地産地消等の食農教育を推進するとともに、保護者に対しても、高付加価値としての価格転嫁や消費の拡大に向け、PRチラシを配布するなど、意識の醸成を図る。

## ② 有機農産物を活用した新たなメニューや加工品の開発

- ・市内の旅館・ホテルや飲食店などと連携し、有機農産物を活用した新たなメニューや加工品の開発を行うことで、有機農産物のPR及びブランドの確立を目指す。

## ③ 新たな販路拡大（消費）の検討

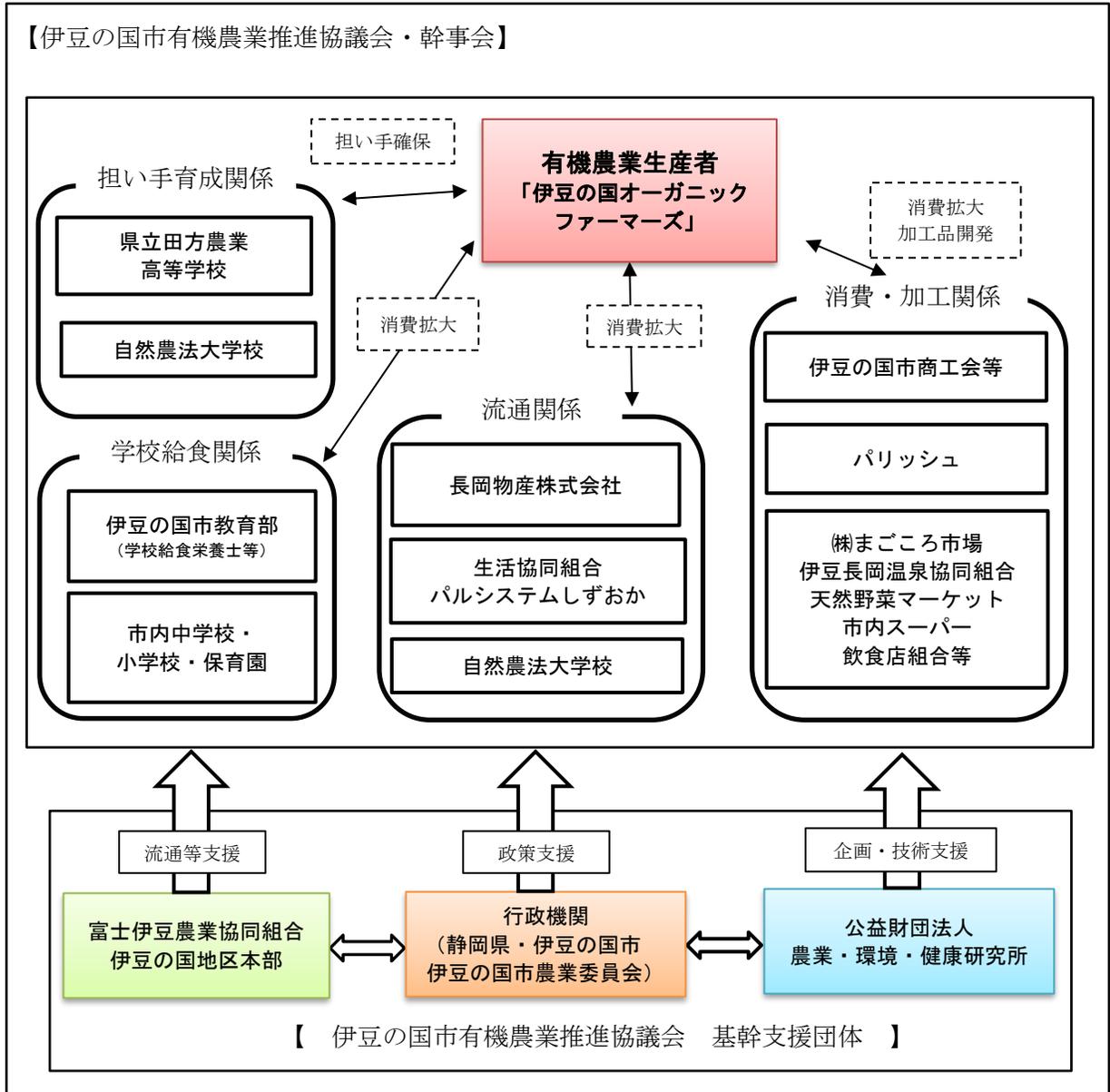
- ・市内で有機農産物を取り扱う販売所が限定的であることから、市内スーパー、直売所や旅館・ホテル、飲食店での販路拡大の検討を行う。
- ・需要に応じた有機農産物を生産することで、生産者の生産意欲の向上と生産量の拡大、さらには販売所等での取扱量も増大することから、有機農産物に対する消費者ニーズを適切に把握する。

## ④ 消費PR活動

- ・有機農産物の消費拡大に向け、本市温泉街等の観光ホテルや旅館等に対し、生産量に応じて限定的であるが、PR活動としての農産物の提供を検討する。
- ・市内イベント等と連携した「マルシェ」を開催するなど、有機農産物のPR及び消費拡大に繋げる。
- ・関係団体等と連携し、市内スーパーや直売所等に有機農産物販売コーナーの設置を推進する。
- ・有機食材の購入や飲食ができる店舗のチラシやマップ等を作成し、市民へ向けてのPR活動を展開することで、有機農産物の消費拡大に繋げる。

## 5. 取り組み推進体制

### ア 実施体制



### イ 関係者の役割

#### 有機農業者 (伊豆の国オーガニックファーマーズ)

- ・担い手の確保に向けた農業者間での情報発信
- ・取組面積の拡大検討
- ・有機農産物導入作物の検討
- ・有機農産物の販路開拓と情報発信 (PR)
- ・スマート農業機器の導入と活用
- ・有機農業と慣行農業の圃場の団地化に向けた地域計画の検討
- ・有機稲作研究会への参画と栽培技術研修の協力

#### **行政機関（静岡県・伊豆の国市（農林課・農業委員会））**

- ・「伊豆の国市有機農業実施計画」に基づく事業に必要な事務・政策支援（提案）
- ・実証圃場の運営
- ・全国有機農業の推進に係る取組事例等の情報収集

#### **公益財団法人農業・環境・健康研究所**

- ・有機農業生産者に対する栽培技術及び知識の支援
- ・有機農業推進に関する企画提案
- ・有機農業の取組事例等の情報収集

#### **富士伊豆農業協同組伊豆の国地区本部**

- ・学校給食に提供する有機農産物の流通経路の検討と確保
- ・関係機関と連携した有機質肥料の開発、有機肥料・有機資材の販売、有機農産物の流通
- ・農協が所管する直売所での有機農産物の販売による消費拡大への支援

#### **自然農法大学校**

- ・有機農業を担う農家の担い手の育成
- ・優良事例や先進地事例の視察による知識・技術習得支援

#### **県立田方農業高等学校**

- ・市と学校実証圃場の連携による学生への有機農業技術の習得支援
- ・A O I トレースの活用による栽培管理技術の蓄積

#### **市内保育園、市内小中学校**

- ・食農教育活動の実践（環境負荷軽減対策と地産地消等）
- ・児童・生徒、保護者の有機農業に関する普及及び意識の醸成の取組

#### **伊豆の国市教育部学校教育課（教育委員会）**

- ・学校給食への有機農産物の導入（食材の検討、有機農業の日の設定）
- ・販路の検討、有機農産物の公共調達への検討

#### **長岡物産株式会社**

- ・有機 J A S 取得における有機農産物の流通にかかる技術支援

#### **生活協同組合パルシステム静岡**

- ・有機農業で生産された農産物の流通に係る支援
- ・生産から消費までの一貫したシステム構築に向けたアドバイス

#### **伊豆の国市商工会**

- ・市内スーパー、飲食店、小売店（八百屋等）、ホテル・旅館との連携、消費拡大に関する取組

#### **パリッシュ**

- ・環境負荷軽減に取組む有機農業を消費者への P R 活動
- ・有機農産物の消費拡大に向けた検討と実践（マルシェの企画・開催）
- ・消費者意見の集約等

#### **市内飲食店、スーパー・直売所、ホテル・旅館**

- ・有機農産物の P R 及び消費拡大、加工品の開発への取組

## 天然野菜マーケット

- ・有機農産物のPR及び消費拡大への取組

## 6. 資金計画

別紙のとおり

## 7. 本事業以外の関連事業の概要

- ・本協議会の生産者団体による環境保全型農業直接支払制度の活用

## 8. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について

- ・本計画では、静岡県有機農業推進計画（R4.3）と同様に、有機農業推進法第2条に規定される「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業」に取り組むものとする。

## 9. その他

特になし

6 資金計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
	<p>○実施計画策定検討会 0千円</p> <p>1 生産関連の取組 <u>3,547千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修会 2,363千円</li> <li>・講習会 121千円</li> <li>・スマート農業（除草ロボ等）機械リース 661千円</li> <li>・有機ほ場の団地化検討 402千円</li> <li>・有機ほ場転換への支援（現地研修会で計上千円）</li> </ul> <p>3 消費関連の取組 <u>917千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食提供 552千円</li> <li>・消費者へのPRチラシ作成（子供向け漫画） 365千円</li> </ul>	<p>1 生産関連の取組 <u>5,700千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修会（視察含） 2,500千円</li> <li>・講習会 200千円</li> <li>・スマート農業（除草ロボ、栽培管理ソフト等）導入 2,300千円</li> <li>・有機ほ場の団地化検討と転換支援 500千円</li> <li>・集出荷体制の検討 200千円</li> </ul> <p>3 消費関連の取組 <u>3,300千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食提供 1,500千円</li> <li>・消費者へのPRチラシや動画の作成 1,000千円</li> <li>・マルシェ開催 300千円</li> <li>・直売所での有機農産物コーナーの設置 500千円</li> </ul>	<p>1 生産関連の取組 <u>3,900千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修会（視察含） 2,000千円</li> <li>・講習会 200千円</li> <li>・スマート農業（除草ロボリース、栽培管理ソフト通信費等） 500千円</li> <li>・有機ほ場の団地化検討と転換支援 500千円</li> <li>・集出荷体制の検討 200千円</li> <li>・共同ブランド化検討 500千円</li> </ul> <p>2 流通・加工関連の取組 <u>500千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷試運転、倉庫の検討 500千円</li> </ul> <p>3 消費関連の取組 <u>2,600千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食提供 1,500千円</li> <li>・マルシェ開催 300千円</li> <li>・有機のコーナー設置 300千円</li> <li>・宿泊施設等での食材活用の検討 500千円</li> </ul>	<p>1 生産関連の取組 <u>2,500千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修会・講習会（視察含） 1,500千円</li> <li>・スマート農業（除草ロボリース、栽培管理ソフト通信費等） 500千円</li> <li>・有機ほ場の団地化検討と転換支援 200千円</li> <li>・共同ブランド化と集出荷体制の検討 300千円</li> </ul> <p>2 流通・加工関連の取組 <u>500千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷試運転、倉庫の検討 500千円</li> </ul> <p>3 消費関連の取組 <u>4,000千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食提供 3,000千円</li> <li>・マルシェ開催 300千円</li> <li>・有機のコーナー設置 200千円</li> <li>・宿泊施設等での食材活用の検討 500千円</li> </ul>	<p>1 生産関連の取組 <u>2,500千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地研修会・講習会（視察含） 1,500千円</li> <li>・スマート農業（除草ロボリース、栽培管理ソフト通信費等） 500千円</li> <li>・有機ほ場の団地化検討と転換支援 200千円</li> <li>・共同ブランド化と集出荷体制の検討 300千円</li> </ul> <p>2 流通・加工関連の取組 <u>500千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷試運転、倉庫の運営 500千円</li> </ul> <p>3 消費関連の取組 <u>5,000千円</u></p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食提供 4,000千円</li> <li>・マルシェ開催 300千円</li> <li>・有機のコーナー設置 200千円</li> <li>・宿泊施設等での食材活用の検討 500千円</li> </ul>
合計	4,464千円	9,000千円	7,000千円	7,000千円	8,000千円

※4の取組内容に記載されているが、資金計画に反映されていない予算については、今後調整する。